

岩手県議会議員

吉田けい子の 青空レポート

～岩手の未来を私たちの手で～

編集発行／吉田けい子事務所

〒020-0837 岩手県盛岡市津志田町2丁目11-27

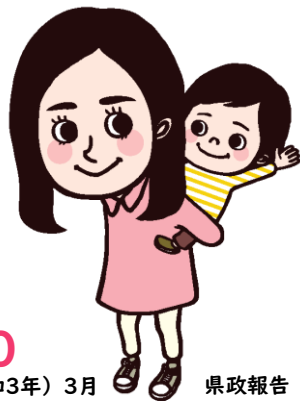
TEL：019-681-6006 FAX：019-681-6010

EMAIL：yoshidakeiko.iwate@gmail.com

NO.20

2021年（令和3年）3月

県政報告



県議会自治功労者表彰（在籍10年）



この度、全国都道府県議会議員長会から自治功労者表彰されました。昨年11月25日に県議会本会議場で議長から賞状を、知事から記念品を頂きました。

2010年7月の補欠選挙での初当選、翌年の2011年3月11日に東日本大震災が発生、不慣れな中での議員活動の始まりは、復旧復興活動に奮闘し、自身の力不足を痛感する日々でもありました。

2016年の台風10号・豪雨被害や、その年のいわて国体いわて大会、2019年の台風19号、今般の新型コロナウイルス感染症と様々な非常時も経験し、激動の10年でした。

県議も4期目。この10年間の活動は、たくさんの皆さまのご支援があつてのものど心から感謝しております。これから初心を忘れず、声なき声に耳を傾け、私たちの声を県政へ届けていきたいと思ひます。今後ともご指導くださいますようお願いいたします。

県庁舎内保育施設/2021年度開設

庁舎内保育施設としては東北初の認可保育所が、盛岡地区合同庁舎別館1階に開設されます。対象は0～2歳児（計18名）。

私が一番嬉しいのは、職場復帰後の母乳育児を継続できるよう環境を整備されたこと！職場で搾乳する場所も時間的余裕もないために、**母乳育児を断念している女性が多いのが現状です。**母乳育児だけでなく、ミルク育児であっても、直接授乳させたい等母親の願いにも応えるものです。

県庁での取り組みが、民間企業へと広がるよう、引き続き取り組みます。

海外では、子どもが1歳になるまで、搾乳および職場内外や自宅・保育所で搾乳する権利を認めた法律が導入され、1日2回の授乳の権利が認められていたりします。

日本では、母乳育児を支える労働環境が改善されることがないまま現在に至っています。



子ども達を利用する椅子やテーブル等には、県産材が使われています。

厚生労働省の平成27年度乳幼児栄養調査によれば、妊娠中の93.4%の女性が母乳で子どもを育てたいと答えています。



以下の項目について取り上げ質疑しました。その一部を右記の通りご紹介いたします。

1. 新型コロナウイルス感染症対策について

- (1) 病床の確保状況等と感染ステージについて
- (2) 診療・検査医療機関の設置状況と検査体制について
- (3) 県民へのメッセージについて
- (4) 患者やその家族等へのケアについて
- (5) 保育士等への慰労金について
- (6) 県の追加支援について

2. 男女共同参画の推進と子育て支援について

- (1) いわて女性の活躍促進連携会議の取組の成果について
- (2) 子育て支援サービスの充実について
- (3) 子育て世代包括支援センターの取組について

3. 教育政策について

- (1) 幼児教育と県の教育政策について
- (2) 高校再編計画について

4. 農林業の振興について

- (1) 米政策について
- (2) i-wool(アイウール)などめん羊振興の取組への評価について
- (3) 農林水産物の機能性活用について
- (4) 森林環境教育の推進について
- (5) 森林経営管理制度について

5. 環境政策について

- (1) 大規模太陽光発電建設抑制について
- (2) 岩手型住宅の普及について

6. 県営施設のマネジメントについて

● 保育士等への慰労金について

Q 政府は、医療従事者や介護施設、障害福祉施設の職員に慰労金を給付したが、保育士など児童福祉関係の施設の職員は給付の対象から外れた。独自の慰労金を支給する自治体が増えている。本県も保育士等への慰労金の給付について検討していただきたいが如何か。

A 政府が給付することとした医療従事者等と同様に、国の財源により国全体のスキームで行われることが望ましいと考えている。県としては、感染の不安を抱えながらも勤務を継続している保育士等に対し、慰労金の支給も含む処遇改善等の取組を進めるよう、国に対して要望しているが、今後も機会を捉えて国に働きかける。

● いわて女性の活躍促進連携会議の取組の成果について

Q 「家庭生活または社会活動と仕事を両立しているか」との県の意識調査では、男女とも理想と現実には依然として差があることが解っている。仕事と子育ての両立に苦慮している。県は、平成26年に「いわて女性の活躍促進連携会議」を設置し、5部会を設けて取組を進めてきたが、この連携会議での提言等はどうか施策に反映され成果は何か。今年産学官連携サテライトミーティングが設置されたが、新たに何に取り組むのか。

A 県では、分野ごとに意見交換や現地調査、研修会などの取組を進めてきた。産学官連携サテライトミーティングでは、女性の意識改革や人材育成のあり方、企業風土トップの意識改革、ワーク・ライフ・バランスの推進などをテーマとして、情報共有や意見交換を行い、交流を深めることとしており、女性活躍に関わる活動が広がっていくことを期待している。引き続き、様々な分野において女性が持てる能力をより一層発揮し、活躍できる環境の整備に努めていく。

● 幼児教育からの一貫した人づくりについて

Q 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成が必要であると判断されている幼児の数は増加傾向にある。幼児教育の段階から関係機関・部局と連携する、切れ目のない支援体制が重要である。就学前の幼児教育から一貫した人づくりや学びのプログラムが岩手県の教育政策に必要である。今後どのように教育政策を展開するのか。

A 令和4年度に幼児教育センターを開設することとしており、センターを中核として幼児教育に関して一体的な推進体制の構築を目指しているところ。質の高い教育が行われるよう教員研修体系を整備し、人材の育成に努めていく。幼小接続や小学校低学年における効果的な指導の在り方について周知、啓発に取り組んでいく。「いわて幼児教育振興プログラム」の改訂と併せて、幼児教育センターの設置に向け取組を推進していく。



● 米政策について



Q コメの需給緩和が深刻さを増し、かつてない規模の減産が求められている。人口減少や食生活の変化による消費低迷に加え、コロナ禍で外食向けを中心に需要が縮小。飼料用米など非主食用米への転換をはじめ、米の消費拡大に向けて、消費の変化を捉えた戦略が必要だが、今後の取り組みについて伺う。

A 県では、国の米政策の見直しを受け、県や関係機関・団体が構成する岩手県農業再生協議会において、平成30年産から毎年、主食用米の生産目安を決定し需要に応じた米生産を推進してきた。こうした取組により、本県の主食用米は、これまで生産目安の範囲内での作付となっており、令和2年産の主食用米の作付は、48,200ヘクタールと、生産目安より約150ヘクタール下回っている。新型コロナウイルス感染症の影響により増加している家庭での消費をターゲットに、SNS等を活用し、お米マイスターのいる米穀専門店や大手通販サイトと連携した販売促進の取組など、県産米の消費と販路の拡大に積極的に取り組んでいく。

● 岩手型住宅の普及について（県産材の利活用促進）

Q 温室効果ガス排出量の削減を図るため、住宅・建築物の省エネルギー対策の強化を目的とした「改正建築物省エネ法」が2019年5月に公布された。県では、一定の省エネ性能を備え、県産木材や木質バイオマスエネルギーを活用した「岩手型住宅」の普及を図っている。一方で、「岩手型住宅」の取組が広く県民に知られていないと感じている。県産材の利活用促進ともなる「岩手型住宅」をどのように普及していくのか伺う。

A 岩手型住宅の普及状況については、岩手型住宅の推進に賛同する事業者92者に対して先月アンケート調査を行い、現時点までに回答いただいた31者の実績をまとめると、令和元年度に着工した229戸のうち52戸、23%が岩手型住宅となっていることを把握したところ。県としては、改正建築物省エネ法の趣旨を踏まえ、岩手型住宅のさらなる普及が必要と認識しており、今後は、各種イベントなど様々な機会を活用するなど、県民の皆様にご存知の取組を充実していくとともに、賛同事業者から普及していくうえでの課題を把握するといった取組も行うこととし、岩手型住宅の普及を進める。

市町村へ要望調査

知事へ要望活動

県民と県議会との意見交換会

親子県議会

農林水産委員会（現在委員長）



11月9～17日に会派で県内市町村の県に対する要望調査へ。



12月8日 来年度予算要望
2月3日 大雪被害対策要望



12月23日(座長を務めました)



12月26日(広聴広報委員として)



12月17日県内調査(立花椎茸農園@矢巾町、
梁川つじ飼育者の会@奥州市等)



2月12日岩手県漁業取締船「岩鷲(いわじゆ)」竣工式@釜石市

地域の皆さんとともに

「盛岡南高校の存続を願う会」

高校再編計画後期計画(案)において、盛岡ブロックの大規模校・不来方高校と盛岡南高校の統合が示されました。昨年11月13日に県教委へ署名とともに要望書を提出しました。その後、盛岡工業高移転の追加提案がされました。

少子化による生徒数の減少で、教育の質の確保は必須ですが、盛岡ブロックへの生徒の集中緩和には、

公立私立両方合わせた議論が必要ではないでしょうか。またコロナの影響で、地域や関係者との合意形成に十分な議論がなされたと言えるでしょうか。



「岩手の飲食業界を守る会」

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発出されていない岩手県においても、発出されている地域と同等またはそれ以上の厳しい経営状況に追い込まれている県内の飲食業界。

①県独自の支援策を講じて頂きたいこと、②国への要請、③実態把握に努めることについて、岩手県、岩手県議会、盛岡市、盛岡市議会に対して要望書を提出しました(2月19日)。



けい子の青空につき

携帯電話に保育園からの着信履歴があると、冷や冷やします。息子は1歳の時、ちょっと弾みで肘の関節が外れてしまい、整形外科の先生にも言われていたのですが、これって癖になるんですね…(肘内障ちゅうないしょうというみたいです)。

先日またやってしまったようで(今回で3回目)、保育園からお電話でした。(肘をこんなに脱臼しても将来菊池雄星くんとか大谷翔平くんになれるかなー?!笑)

昨年の今頃(1歳の頃)は、風邪や胃腸炎やインフルやらで、週をまたいで保育園に通うことがなく…電話が鳴るたびに冷や冷やだったなあ。仕事を急遽キャンセルさせて頂いたり、毎日葛藤や緊張感との戦いだったなあと。



保育園に通い始めてもう少しで丸2年。『最初は大変ですが少しずつ免疫ついてきますよ』とたくさんの方に励ましていたのですが、いま2歳10か月の息子は最近本当にお休みする日が少なくなってきました!長丁場の県議会2月定例会の開会と同時に保育園からの電話は正直ホント焦りました苦笑。

母ちゃん議員、頑張ります!

レポートでは掲載しきれない日々の活動は、SNSでもご覧いただけます。

【HP】 <http://www.keiko-yoshida.net>

【Facebook】 吉田敬子

【Facebookページ】 岩手県議会議員 吉田けい子



皆さまのご意見・ご提言をお待ちしております!



吉田敬子 プロフィール

所属委員会

- 農林水産委員会(現在委員長)
- 人口減少対策調査特別委員会

昭和53年(1978年)1月24日

盛岡市(旧都南村)生まれ

▼ 津志田保育園卒

▼ 津志田小学校卒

▼ 見前中学校卒

▼ 盛岡白百合学園高校卒

(米国Sulphur Springs High School交換留学)

▼ 上智大学外国語学部ドイツ語学科卒

▼ 都内アパレル企業勤務

▼ 青年海外協力隊として南米ボリビアへ村役場勤務、主に女性と子どもの支援

▼ 岩手県男女共同参画センター勤務

▼ 2010年 初当選

▼ 2018年 岩手県議会初の産休取得

▼ 2019年 4期目再選

家族構成: 夫・長男(2歳10か月)